

## 【熊本県地域婦人会連絡協議会賞】

### 福祉にふれて

阿蘇市立波野中学校 2年 坂哉 阿衣理

皆さんはもし、自分の体のどこかに不自由なところがあるとしたら、どんなことを思い、感じると思いますか。

自分は、学校の授業で福祉体験をしました。実際体験してみると、どこか体の一部が使えないだけで、不安や恐怖などの気持ちでいっぱいになりました。その後、福祉体験の振り返りとして、グループに分かれてまとめることになりました。自分は小学生の時、友だちの車いすをよく押していたので、乗っている人の気持ちについて興味をもちました。だから、車いすについてまとめることにしました。

まず、乗っている人の気持ちを考えるためにどうするかを話し合い、車いすに乗って実際に校内をまわってみることにしました。すると、学校の中でも車いすでは移動しづらいところが二、三か所ありました。また、落としたものを拾ったりするだけでも注意が必要だということも学ぶことができました。そこから、二つの疑問が浮かびました。

一つ目は、体が不自由な人でも過ごしやすい施設づくりにした方がいいのではないかとということです。ある日、家の周りを散歩していると、杖をついたおじさんが階段を上れずに困っている場面を見かけたことがあります。「上れますか？」と声をかけると、「大丈夫。」と言って、遠回りをして歩いて行きました。たくさんの施設ではバリアフリーの考え方を取り入れています。まだ進んでいないところもあるということに気づきました。

二つ目は、体が不自由な人が困っているとき、自分たちにできることがどれだけあるのかということです。福祉体験で目が見えない人の体験がありました。アイマスクをつけると、隣から声をかけられないととても不安でした。この体験から、困っている人がいたら声をかけるなど、普段から自分たちにもできることはたくさんあることに気が付きました。

しかし、耳が聞こえない、目が見えないなど、見た目では困っているかどうか分からない場合があると考えました。そんなときでも、そのような人たちが困らないように私たちがアンテナを張って気配りをしていく必要があると思いました。

これまでの自分は、体が不自由な人を見ても何も考えていませんでした。しかし、福祉体験を通して、体が不自由な人の気持ちを知り、これからはそのような人を見かけたら何かできることはないかを考えて行動しようと考えようになりました。バリアフリーの考え方が定着し、そのような施設が増えている中、体が不自由な人からしたら、まだ困っていることがたくさんあると思います。ですが、その人たちに幸せな毎日を過ごしてもらうためにも、自分たちがアンテナを張り、困っていることに気付くようになりたいです。そして、いつかは、自分がその人たちと向きあい支えていきたいです。